



『相談支援専門員ってどんな仕事？』

「相談支援専門員ってどんな仕事？」とよく聞かれます。障がいを持つ人が障がい福祉サービスを利用して生活するためのマネジメントをするのが相談支援専門員の仕事です。障がい者版ケアマネジャーですね。

えんの相談支援事業所には乳児から高齢の方まで約 260 名の利用者さんがいます。先天的な病気や不慮の事故での後遺症など、原因も状態もさまざまです。私たちは障がいを持つ一人一人と向き合いながら、その人がその人自身の希望する生活を送るために必要なプランを組み立てています。

Aさん(30代男性・知的障がい)は、障がいを持っていることを伝えずに働いていましたが、人間関係や業務上のトラブルが続き、仕事を辞めることになりました。この先を思い悩んでいたところ、周りの人からアドバイスを受け、まずは得意・不得意を自分自身で知りたいと思いました。今後、職場の理解も得ながら、継続できる仕事に就くために『就労移行支援事業所(働く力を身に付けるための通所サービス)』への通所を始めましたが、そこでも同じような悩みが出てきました。悩みができるたびに相談員のもとに相談に来ていましたが、提案したアドバイスを実践してみてもなかなか課題が解決しませんでした。私たちは継続してAさんの話をしっかりと聞き、改めて目的と課題を一緒に整理しました。その後、本人が自分の言葉で悩みを事業所に伝えられるよう、担当者会議を開くことを決めました。そうした調整も相談支援専門員の役割です。計画を立てれば終わりというものではありません。

Aさんだけでなく障がいがあることで人との距離感がつかめない・コミュニケーションが苦手など、人間関係で悩みを持つ人がたくさんいます。社会に出るということは「人との関係を作っていくもの」なのだ利用者さんに教わっている気がします。

利用者さんは一人じゃない。何かあれば私たち相談支援専門員と一緒に考え、悩み、医療や家族・各関係機関とも繋がりながら、共に歩んでいきます。すぐに結果が出なくとも一人一人の苦悩の先に見えてくるものが必ずあると信じて。

(障がい者相談支援ケアプランえん／須貝恵子)